

---

# あま、てらす！

すていつ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

あま、てらす！

### 【Zコード】

Z5261BA

### 【作者名】

すていつ

### 【あらすじ】

今から20年前、人類は神に挑んだ。休暇中であった神は人類の前に敗れ、その力は世界中に散らばってしまった。“神下ろし”と呼ばれる大事件である

その“神下ろし”の結果、神憑と呼ばれる神の力の一部を内包した人間が6人誕生した

これは、神憑の1人である白野クロノ君（18）が他の神憑の仲間と共に神を蘇らせる為の物語である

そして、作者は女装っ子好きの厨二病である

## プロローグ1・1(前書き)

拙い文章ですがよろしくおねがえします

## プロローグ1-1

今から20年前、人類は神に挑んだ。休暇中であつた神は人類の前に敗れ、その力は世界中に散らばってしまった。こんなことは子供だって知っていることだ

“神下ろし”と呼ばれるこの出来事は世界を大きく変えることになつた

まあ大きく変わつたとは言つても世界の支配者が神様から人間に変わつたって事と、神憑かみつきと呼ばれる散らばつた神様の力を内包した人間が何人か誕生したって事以外は“神下ろし”以前と何も変わつてないって話だ

「あ」

「どうした？」

隣を歩いていた少女、幸花杏子さちばなあきょうに目を向いた

「いや、家の鍵かけ忘れたなーっと」

「お前馬鹿なの!/? もう出発してから半日は経つてるからね?!? うわー! どうするんだよ! -」

「まあ焦るな童貞。どうせ盗られて困る物なんか無かつたよ

「ああ、まあ確かに」

旅に出る際に必要な物以外は全部処分したし

「……ってかお前今せりげなく俺を中傷しなかつた？」

「なんなら後で隣の家のおばさんに鍵の場所を教えて掛けておいて  
貰おうじゃないか」

「ああ。 それがいい」

多少の中傷など気にしないのが俺である

「んなことよ。 わらわ寝よ」

「へへ。 やっぱり田舎にして宿を見つけるのは不可能だったか

杏子が口惜しそうに呟いた

適当に眠れそうな場所を探して一軒の廃屋に入つてみると

「おやおやおや？ お嬢さん達。 こんな時間に2人つきりでこんな  
暗がりに入つてきちゃうのは感心しないなあ」

「そんなんだとおじさん達みたいな悪い奴らに酷い事をねちゃうぞ  
？」

「金は持つて無さうだが2人とも上玉だなあ。 ツイてるなあおい」

屈強な盗賊達に囲まれていた

「ク  
ロ  
ノ」

めんどくせうに杏子が俺を見た

「……あー。あんた達。言つておぐが俺は男だ」

「男お？ そり話つておけば助かるとでも思つてんのか？」

「靈ひのいもとヒマジな顔をつわね

まあ確かにこんな格好してたんじや嘘だと思われても仕方ないか

「まあ信じなくてもいいや。それよりも今日はここでいいか？」

## 杏子に尋ねる

「んー。まあ及第点」

「おいおい。なんで俺たちのことがアウト・オブ・眼中なんだよ！」

「俺達と寝るってことじやね？」

「大胆発言いたしましたーー！」

「」「」「」「」「」「」「」「」

「あ、楽しそうなところ悪いけど邪魔だからあんた等出て行つてくれないか？」

「こんな犬小屋みたいにせまいのにあんた達みたいなムサイのがこんなにいたんじゃストレスがマツハ」

「犬小屋だと！？ 僕たちの根城を犬小屋だと！？」

「おい、ムサイだつてよ。どんまい」

「お前の方がムセーよ！」

「お嬢ちゃん達。俺達をなめてるのか？」

「あんまり調子に乗つてると……殺すぞ」

盗賊達はそれぞれの持つ凶器を取り出した

「殺されたくなかったら大人しくしてな」

いつも思うのだが、こういう状況で怯えたりしてないって時点で相手が普通の人間じゃないつて気付けないのでだろうか

無理だから盗賊なんてやつてんのか

「私がやろうか？」

「いいや、俺がやろう」

何もない右手に念じる。今日はバツ＝ズーカ君三世にしてよう

「ん？ ……えつ？」

盗賊の1人が素つ頓狂な声を上げた

「なななななな！ なんだよあれ！」

「あん?  
何のこと... 何あれええええええ!?

「バツ」にそんなもん隠し持つてやがった！？

「いや、別に隠してたんじやなくて、あれだ……うーん」

なんと説明すべきか

「簡単と言ひど  
えもん」

「「「訳わかんねーよ！」

的確な突っ込みである

「まあいいじゃんか。とつあえずわよなひ」「

チュドーンとバツィズー！カ君三世の発射口から砲弾が飛び出した

「おー。飛んでく飛んでく」 パチパチ

杏子の拍手と共に、彼らは星になつた

「お疲れ、ズーカ君」

バツ＝ズーカ君三世は俺が手を離すのと同時に光の粒子となつた

「「寝床！ GETだぜ！」」

杏子とハイタッチを交した

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5261ba/>

---

あま、てらす！

2012年1月14日16時47分発行